



扁平苔癬について

医療法人社団山根歯科医院
理事長 山根 進

扁平苔癬といっても、ピンとこないかも、しれませんが、痛みでこの病変にきづくことが多いです。発症部位は頬粘膜が多く、歯肉、歯肉移行部、舌で見られることがあります。肉眼的初見では、白色の線状、レース状、網目状を呈しており、角化性病変であります。一般的には、赤と白の網目状の病変であり、白い網目のすき間が赤色になっています。白色部分は角化層が厚く、赤い部分は上皮が薄い状態を示しています。上皮の薄い部分はびらんや潰瘍になりやすく、痛みがひどい場合があります。しみて痛いと言われる人もおられます。とくに、とうがらしやわさびなどを食べると痛みがひどくなり、刺激物はやめているといわれます。組織所見としては上皮の角化と上皮下のリンパ球浸潤が特徴です。したがって、細胞性免疫が疑われ、上皮細胞に対する異常反応と考えられます。可能性のある原因として、金属アレルギー、薬（降圧剤、抗精神薬、利尿剤など）、肝炎ウイルスなどがいわれています。扁平苔癬を完治させる治療方法は現時点ではありません。副腎皮質ホルモン剤（ステロイド剤）軟膏の塗布によって、症状を軽くすることはできます。軽くなれば、軟膏の塗布を止め、自覚症状が再度ひどくなれば、塗布を開始する。というふうに、自覚症状がない時は軟膏の塗布をやめておき、自覚症状がでれば塗布するようにしてもらっています。当院では、扁平苔癬にたいして、デキササルチン軟膏を投与しております。そして、なるべく刺激物、辛い物はたべないように指導しています。自然に消滅することもあり、気長に経過を観察していく必要があります。

頬粘膜	赤と白の網目状の病変	デキササルチン軟膏
-----	------------	-----------